

ただいま13期生、231名に卒業証書を授与いたしました。13期生の皆さん卒業おめでとう。

さて、正門の桜並木に新芽が息吹き、新春到来の気配を感じさせるこの佳き日に、大阪府立北かわち阜が丘高等学校第13回 卒業証書授与式を挙行いたしました処、ご多用中にもかかわらず、

大阪府議会議員 上田 健二(うただけんじ)様、肥後 洋一郎(ひご よういちろう)様を始め、多数のご来賓の方々にご臨席賜りましたこと、高い所からではございませんが、厚く御礼申し上げます。

また、多くの方々からお祝いのお言葉を頂戴し、卒業生はもとより、本校教職員にとりまして、何にもまして慶びとするところでございます。

保護者の皆様、おめでとうございます。保護者の皆様におかれましては、本校での教育活動を終え、晴れやかに巣立ちゆくお子様の英姿をご覧になり、感慨ひとしおのものがおありかと存じます。本日、卒業の日を迎えられましたのは、お子様自身の努力の賜物であるとともに、今日までお子様を温かく育んでこられた皆様の愛情の賜物でもあるということは言うまでもありません。心よりお慶び申し上げます。

13期生の皆さん、改めて卒業おめでとう。

私自身、皆さんとは、阜が丘での同期。令和2年4月に本校に赴任し、『皆さんと対面できる、新天地で頑張るぞ』って矢先に、緊急事態宣言が発令され、臨時休業せざるを得ませんでした。5月、入学式を終えていないのに、分散登校って何?って思った人も少なくなかったのではないのでしょうか。

私自身、皆さんの晴れ姿を見ることなく、入学許可宣言を行い、皆さんは、そのような形で阜が丘の高校生活をスタートすることになりました。その後の状況も予測できない中、高校生活が始まったにも拘らず、

13期生の皆さんは、一人ひとり、阜が丘での高校生活を楽しもうと、そして、色々な体験をしたいって強い思いを持ちながら、しっかり活動してくれました。

高校入学後に始めた競技で、北河内大会、見事優勝し、表彰された人。先輩が引退し、残っている部員だけでは試合ができず、試合ができない中で何を目標にすればいいのか自問し、一度はクラブを辞めようとした人、坂の上で話をしました。一緒に練習してきた仲間がいて、更に人数を減らすことはできない、この辛い場面を逃

げ出せないって考え直し、新入生を迎え入れる来春までに、先輩らしい姿を、体格をつくりあげるぞって、ランニングに筋トレに励み、見事3年間の部活動をやり遂げた人。力強い演奏をするために心肺機能を高めるようと、真夏の校舎裏、短距離ダッシュをしている姿に、思わず一緒に競った人達。

食育教育の繋がりで、土まみれになりながら収穫した芋ほり、探究の種・シイタケ菌のその後について、興味の扉全開に、廊下ですれ違い際聞いてくれる人等、一人ひとりの活動と、頑張ってきた姿が今このときに、思い出されます。

先輩たちに牽引されながら、行事や部活動を通じ、『皐が丘を見た』1年生。

最初の学校行事は、10月実施の体育祭。直後の感想で『皐の体育祭、半端ない』『俺らが3年になったら、もっと盛り上がるものになりたい』って語っていた人達が、3年生になった今年の体育祭では、団旗を掲げ、応援の舞を演じ、しっかり後輩たちを先導していました。

後輩たちが入学し、部活動や行事等で牽引し、皐が丘での高校生活を謳歌するぞと意気込んだ2年生の春。コロナの猛威に行事は延期。そのような状況でも、感染防止対策を講じつつ、先輩たちと共に学校行事をやり遂げました。

クラスTシャツを着こなしバトンを繋いだ全員リレー、掛け声をあわせた大縄跳び、担任の名前をなじったカフェや、チョコバナナやりんご飴のレプリカを展示し、賑わいが戻りますよようにって、思いが込められた文化祭。

それらの活動を通じて、『皐が丘を知った』2年生。

これまで通りの生活への回帰をめざした今年度。6月実施の体育祭、中学生を迎えて部活動の大会を開催したり、地域に赴き表敬演奏、皐が丘らしさを外部に発信してくれました。そうした活動の一方で、各自の進路実現への取組が始まっています。放課後、自習室やHR教室で受験対策をしている人、エントリースhirt(自己推薦文)の添削指導を受けていた人、AO入試の直前、面接練習に校長室に駆け込んできた人、度重なる面接指導で自己を見つめ直した人等、進路実現のために

取り組んでいる真剣な様子に、皆さんの逞しさを感じました。また、9月実施の文化祭、『演劇コンクール』では、各クラスとも創意工夫が織り込まれた演出に加え、

役になりきり演じる姿を見せてもらいました。

諸行事を楽しみ、そして団・クラスを纏めあげる等、『臯が丘を楽しんだ』3年生。本校に入学して以来、それぞれ勉学に、学校行事に、部活動によく頑張ってきました。本日、皆さんに渡された卒業証書は、言うまでもなく、皆さん一人一人が日々奮闘し、活躍してきた結晶であります。

しかし、また同時に、自分一人だけの力で得られたのではなく、ご家族の方々の愛情と励まし、先生方の時に厳しくも熱心な

指導と慈しみ、先輩や友人たちとの絆等、多くの人たちに支えられ、得られたものであるということは言うまでもありません。

幾多の苦難の乗り越え、今、卒業という人生の大きな転機に立った今だからこそ、皆さんには、改めて、生活を支え、励ましてくれる周りの方々へ感謝の気持ちを忘れないでもらいたいと思います。

高校生活3年間には、自分の思い通りに事が進まず、ついつい文句を言い、時には友人や先生方とぶつかり、ついつい拗ねてしまった人もいましたね。

気づけばいつも誰かに支えられ 今日、ここまで歩いてきました。だから、今度は皆さんが、一社会人として、誰かを支えられるように、周りの人達と十分に話をし、時には調整し、よりよい生活ができるように努めて下さい。昨日の自分よりも成長した今日の自分のために、文句や言い訳でごまかすのではなく、今できることを探り、日々行動することが大切です。

また、自身の言動・行動に、一社会人として責任が求められますので、これまで以上に周りを思いやる気持ちと、自身への施しに対する感謝の気持ちを忘れないようにして下さい。明日からは、持続可能な社会を担う一社会人として、予測が出来ない未来に対し、また、数多くある社会問題と対峙する中で、期待と不安を抱えながら、異なる進路を歩むことになりましたが、自分の夢を追い続け、必ず自身の夢を叶え、社会に貢献されることを期待しています。本校に立ち寄る機会は少なくなりませんが、皆さんには、臯が丘のOB・OGとして社会で活躍される姿を知らせて頂くこ

とで、後輩達をけん引してもらいたいと思います。皆さんの近況・活躍ぶりは、先輩の体験談として、後輩や本校教職員に披露し、引き続き、本校が発展するための潤滑油として紹介させていただきます。

さあ、旅立ちの時がきました。

まずは、4月からの新たな生活への準備を始め、日々、奮闘・ご活躍されることを期待しています。

頑張ってくださいよう。

最後になりましたが、これまで様々なご支援・ご協力をいただきました保護者の皆様、後援会の皆様、同窓会の皆様、地域の皆様を始め、ご関係の皆様にご心よりお礼を申し上げます、大阪府立北かわち阜が丘高等学校 第13回卒業式の式辞といたします。

令和五年二月二十八日

大阪府立北かわち阜が丘高等学校

校長 重松 良之